

各 位 プレスリリース

株式会社農業総合研究所

富山市公設地方卸売市場の竣工で 富山中央青果株式会社との連携を強化 新青果棟で、より新鮮な農産物の提供が可能に

流通の変革によって農業を持続可能なものへ変える、産直流通のリーディングカンパニー、株式会社農業総合研究所(本社:和歌山県和歌山市、代表取締役会長 CEO 及川智正、以下「当社」)は2023年3月1日(水)に富山市公設地方卸売市場の再整備事業として、新青果棟が竣工するのに伴い、富山中央青果株式会社(本社:富山県富山市、代表取締役社長 安井豊、以下「富山中央青果」)との連携をさらに強化します。

■ 提携強化の背景

2021年12月に当社と富山中央青果は資本業務提携を締結しました。当社の産直流通は一般に「市場外流通」と呼ばれるものです。「市場流通」の富山中央青果とは本来、競合関係と言えます。ですが、立場の異なる両社が資本業務提携を結んだ背景には、「地域の生産者を応援したい」という想いを共有したことがありました。生産者の高齢化と慢性的な担い手不足といった「農業の危機」に対処するためには、立場の違いを超えて、流通を高機能で効率的なものに変え、農業の価値を高めることが不可欠だからです。

加えて、富山県特有の課題も存在します。富山県はコメ中心の兼業農家が多いため青果物の産出額が少ないことが特徴です。北陸農政局の調べによると、富山県の青果の産出額は1984年から2021年まで38年連続で全国最下位、農業全体の産出額に占める青果の割合も岩手に次いで低い状態です。富山県の青果生産を活性化するには、流通基盤の強化も併せて必要となってきます。

この1年余りの両社の提携では、両社の強みを提供し合ってきました。当社からは野菜のブランド化や販路拡大を支援してきました。一方、富山中央青果から当社は市場流通に関するノウハウの提供を受けました。まさにそれぞれの強みを補完し、相乗効果を生み出すことができたのです。



■ 提携成果の具体例「仲良しろねぎ」

富山の代表的な農産物と言えば、白ネギです。富山の白ネギは、白い部分と緑の部分が 半々なのが特徴です。ですが、白い部分をメインに食べたい関東圏の生活者にとっては、物 足りないもので、必ずしも高く評価されてはいませんでした。しかし、当社が富山で取材す ると、「緑の部分も食べるので、半々がちょうどいい」という生活者がほとんどでした。そ こで「白い部分と緑の部分が仲良く半分ずつ」ということで、「仲良しろねぎ」とネーミン グをつけてブランド化しました。専用パッケージを作って販売したところ、従来の白ネギと 比べ、販売額が3割近く増えるというヒット商品となっています。

■ 新青果棟の竣工による連携機能の強化

農産物の選別、袋詰め、パック詰めといった「1次加工」と集荷や配送といった流通業務は、これまでは別の建物で行わざるをえず、非効率な状態が続いていました。ですが、新たな青果棟ではこうした一連の作業を同じ建物のなかで行えるようになり、大幅な効率化が見込めます。加えて、新青果棟において低温帯エリア(保冷庫)を整備拡充し、従来以上に厳格な温度管理のなかで作業を行うことができます。農産物の鮮度を維持しながら、生活者に届けることが可能となります。



撮影者:京角真裕(空耳カメラ)Photo by Masahiro Kyogaku (Soramimi Camera)



■ 富山中央青果株式会社について

富山市公設地方卸売市場の青果物部卸売業者として、国内外の産地から青果物を集荷し、せり取引・相対取引を通じて、市場内の仲卸業者及び県内外の卸売業者等へ販売。富山県の青果物流通拠点としての公共的使命を果たしている。

本社:〒939-8212 富山県富山市掛尾町 500 番地

代表取締役社長:安井 豊

■ 会社概要

株式会社 農業総合研究所 JPX 証券コード 3541

当社は、「持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする」をビジョンに掲げ、日本及び世界から農業が無くならない仕組みを構築することを目的とした産直流通のリーディングカンパニーです。全国約10,000名の生産者と都市部を中心とした約1,900店舗の小売店をITでダイレクトに繋ぎ、情報・物流・決済のプラットフォームを構築することにより、農産物の産地直送販売を都市部のスーパーで実現した「農家の直売所事業」と生産者から農産物を買い取り、ブランディングしてスーパーに卸す「産直卸事業」を展開しています。

■ 本件に関するお問い合わせ

株式会社農業総合研究所 経営管理部 広報課 〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田 9 9 番地 1 2 寺本ビル II 4 階

TEL: 073-497-7077

Mail: pr@nousouken.jp